



さんかくつうしん

Newsletter Vol.14

- 女性教員応募・採用促進の新方策が決定……………1
- 北東北国立3大学男女共同参画シンポジウム開催……………1
- 「女子高生工学系キャリアサポート」開催……………2
- 弘前大学総合文化祭で女性研究者パネル展示……………2
- アピオあおもりの図書パッケージを貸出……………2
- 男女共同参画推進のための意識・実態調査報告……………3
- 研究者支援制度平成27年度実績および制度拡充……………3
- 託児支援制度について……………3
- 子育て・介護に関する学内制度リーフレットを発行……………3
- 第2回「さんかくカフェ」を開催……………4
- 子育て中の教職員に対する駐車許可証発行を試行……………4
- ダイバーシティワークショップを開催……………4
- 地域と連携した講演会・実験教室を開催……………4

女性教員応募・採用促進の新方策が決定されました

1月12日、全学教員人事委員会において、女性教員の応募・採用促進を目的とした2つの方策が決定されました(詳細は下記をご覧ください)。決定日から施行しています。

また、男女共同参画推進室では、平成27年12月、弘前大学男女共同参画推進基金による事業のひとつとして、学系長等からの申請に基づき、面接に女性候補者を呼ぶ場合に交通費を試行的に補助することを決定しました。

弘前大学の女性活躍促進やワーク・ライフ・バランス等の支援策の詳細については、男女共同参画推進室のホームページをご覧ください。

■ 教員公募最終選考時の女性候補者確保の方針化

女性から応募があり各公募が定める応募資格を満たす場合には、可能な限り女性候補者を1名以上面接に残すことを全学の方針とする。

■ 公募要項における女性優先採用の全学統一記載

業績及び資格等に関わる評価が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用する旨を全学統一で公募要項に記載する。

北東北国立3大学男女共同参画シンポジウム

「男女共同参画の視点から地方創生を考える」を開催しました

平成27年9月14日、人文学部校舎多目的ホールにおいて、平成27年度北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウム「男女共同参画の視点から地方創生を考える」を開催しました。

文部科学省生涯学習政策局 高橋雅之男女共同参画学習課長による女性活躍推進をめぐる最新の政策動向等紹介の後、まち・ひと・しごと創生会議委員の樋口美雄慶應義塾大学商学部教授が「地方創生と男女共同参画推進」と題して、北東北地域における人口減少・就業・進学等の男女別の状況や地域課題解決のための男女共同参画推進の大学の役割等について基調講演をされました。

後半は、秋田大学、岩手大学、弘前大学による取組報告と、3大学の男女共同参画担当理事が登壇しパネルディスカッション「地方創生に果たす大学の男女共同参画推進の役割」が行われました。最後に、3大学の理事による「北東北国立3大学 男女共同参画推進のための共同宣言2015」を発表して、3大学の今後のさらなる連携と、地域とのいっそうの連携、各大学の地域連携の取組を男女共同参画の視点を踏まえたものとすることを確認しました。

学内外から約90名の参加があり、「大学ですでに実施している取組や今後の地方創生に向けた方向性を把握することができた」「地域創生において男女共同参画が重要であることが明確になり、理解が深まった」「3大学の取組は進んできているが、結果・成果はこれからであり、女性にとって住みやすい、人口流入が北東北において起きてくるようなさらなる取組や連携の強化が必要だと感じた」などの感想が寄せられました。

北東北国立3大学 男女共同参画推進のための共同宣言 2015

性別に関わらず、多様な人がさまざまな連携を通じて新たな知の創造に向かうグローバル社会の流れの中で、高等教育・研究機関である大学は、学術研究の進展と有為な人材育成により、地域発展の重要な先導的役割を担ってきました。

北東北国立3大学は、平成27年度北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウムにおいて、私たちが立地する地域に共通する人口減少などの課題に向き合うにあたっては、男女共同参画の視点が欠かせないこと、そしてその中で、地域の拠点大学としての先導的役割を担っていることを再確認しました。

これまで、北東北国立3大学は、連携して、女性研究者支援をはじめとする男女共同参画の取組を推進してきました。3大学は、私たちが私たちが立地する地域の持続的な発展のために、次のことを実行していくことを宣言します。

1. 今後とも3大学が連携して男女共同参画を推進すること
2. 地域といっそう連携して男女共同参画を推進すること
3. 地域連携の取組を男女共同参画の視点を踏まえたものとする

平成27年9月14日 秋田大学理事 小川信明
岩手大学理事 菅原悦子
弘前大学理事 大河原隆



科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」を開催しました

次世代育成を目指して12月19日と20日の2日にわたって女子高生対象の科学イベントを開催しました。

今回、八戸東、八戸北、弘前南、弘前中央の4つの高校から総勢19名の生徒が参加しました。

このイベントでは女子高生の工学への興味を喚起することを目的に、シャボン玉を用いた科学実験を行い、各校でその結果を議論すると共に参加者の感性をいかしたシャボン玉を用いた新しい科学技術の発明に挑戦してもらいました。

参加した生徒は熱心に作業に取り組み、最後に行ったプレゼンテーションでは、各校の発明に対して高校生同士で大変活発な質疑応答が行われました。

イベント後に行った『将来、エンジニアとして働くことに興味を持ちましたか?』という質問に対して、参加者の95%から前向きな回答を得ることができました。



弘前大学総合文化祭で女性研究者パネル展示を実施しました

平成27年10月17～18日、弘前大学総合文化祭において、本学の女性研究者や男女共同参画推進の取組についてパネル展示を通じて紹介する「弘前大学で活躍する女性研究者たち」を開催しました。

多くの方々に来場いただき、「女性の社会進出について、弘大でもこのような活動がなされていることに大きな期待が持てた」「いろいろな研究内容を知ることができて、大変興味深かった」等の感想が寄せられました。



地域の催しでも女性研究者パネル展示を実施しました

平成27年11月8日に青森県男女共同参画センター(アピオあおもり)の「アピオあおもり秋まつり」において、2月14日に弘前駅前公共施設ヒロロスクエアで開かれた「第5回弘前市市民ボランティア交流まつり」において、本学の女性研究者の研究内容や男女共同参画推進室の取組を紹介するパネル展示を行いました。

いずれの会場でも、たくさんの方々に興味をもってご覧いただきました。



アピオあおもりの図書パッケージを貸出しました

男女共同参画推進室では、青森県男女共同参画センター(アピオあおもり)との連携事業として、同センター情報ライブラリー所蔵の「キャリアと仕事」に関する図書パッケージをお借りし、平成27年11月から1月まで、学生就職支援センターで貸出しました。



「平成27年度弘前大学男女共同参画推進のための意識・実態調査」の報告

平成27年夏に全ての教職員を対象に質問紙調査を実施しました。質問紙の総配布数は2,589通で、有効回収数は1,815通(有効回収率70.1%)でした。ここでは、その結果の一部を簡単に紹介します。

「現在ワーク・ライフ・バランスがとれていますか」については、「とれている」18.8%、「ややとれている」34.5%、「あまりとれていない」33.3%、「まったくとれていない」12.5%という結果でした。本学教職員の約半数がワーク・ライフ・バランスをとれていないということです。

また「本学の女性教員比率・女性管理職比率が低い背景にあるもの」という質問については、一番多い回答が「仕事と生活の両立が困難」(71.2%)でした(複数回答)。ワーク・ライフ・バランスという労働と生活の基本に関わる支援が依然として本学では必要であることがわかります。これらをふまえ今後の推進室の事業に反映させていきたいと思えます。

研究者支援制度平成27年度実績および制度拡充について

子育て・介護中の研究者支援制度について、平成27年度の支援実績のご報告と平成28年度からの制度変更に関するお知らせです。

平成27年度は医学研究科2名、保健学研究科1名、教育学部1名と人文学部1名(男性研究者1名、女性研究者4名)に対し研究支援が行われ、人文学部、教育学部、医学部、保健学研究科の学生計10名が研究支援員として業務に従事しました。

年度初めの期間や緊急のケースに対する支援に関するご要望や、申請者の増加などの状況の変化も考慮して、平成28年度からは一般の支援開始を4月に前倒した上で、随時追加支援に関するご相談を受け付ける形とするともに、新規の申請者を選考の過程で重視する方向の制度変更を行っています。

これまで制度をご利用されていた方々についても、引き続きの申請は可能となっておりますが、JSTが設けている出産・子育て・介護支援制度などへの申請も併せてご検討下さい。

詳細については、男女共同参画推進室ホームページ(<http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>)をご覧ください。

託児支援制度について

育児中の教職員の業務を支援する一環として、学会への参加やセンター試験業務について託児支援制度を設けています。平成27年度では、これまで延べ3名(1月時点見込)の研究者に対して学会参加時の託児支援制度による支援が行われました。

この制度では、年度内の学会への参加について3月18日まで支援申請の受付を行っており、本年度末に学会に参加する予定の研究者の積極的な利用を歓迎します。制度に関する詳細や応募書類などは、男女共同参画推進室ホームページよりダウンロードすることができます。

また、平成26年度よりセンター試験時の託児支援制度を運用しており、これまでに述べ2名に対する支援を実施しています。本制度は、教員の試験監督業務だけでなく、試験実施日における職員の関連業務全般を支援対象としているもので、来年度以降も試験業務に携わる教職員の皆様の利用をお待ちしています。

子育て・介護に関する学内制度リーフレットを発行しました

平成27年11月、教職員のワーク・ライフ・バランス支援の一環として、リーフレット「結婚・子育て・介護 あなたが利用できる学内制度」を発行しました。リーフレットでは、子育て・介護に関する休暇・休業制度の種類や取得可能期間、有給無給の別や申請書類に添付する書類等を図表で紹介しています。

リーフレットは、全教職員に配付しました。男女共同参画推進室ホームページからもダウンロードが可能です。



種別	種別	結婚・子育て				申請期間	有給/無給	備考
		取得可能	取得可能	取得可能	取得可能			
結婚・子育て	結婚休暇	○	○	○	○	○	○	結婚前日(前日)に取得する
	産前産後休暇	○	○	○	○	○	○	産前産後休暇(産前産後休暇)
	育児休業	○	○	○	○	○	○	育児休業(育児休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	育児短時間勤務	○	○	○	○	○	○	育児短時間勤務(育児短時間勤務)
	育児短時間勤務	○	○	○	○	○	○	育児短時間勤務(育児短時間勤務)
	育児短時間勤務	○	○	○	○	○	○	育児短時間勤務(育児短時間勤務)
	育児短時間勤務	○	○	○	○	○	○	育児短時間勤務(育児短時間勤務)
	育児短時間勤務	○	○	○	○	○	○	育児短時間勤務(育児短時間勤務)
	育児短時間勤務	○	○	○	○	○	○	育児短時間勤務(育児短時間勤務)
介護	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)
	介護休業	○	○	○	○	○	○	介護休業(介護休業)

第2回「さんかくカフェ」を開催しました

平成27年度第2回「さんかくカフェ」が、11月4日に、弘前大学保健学研究科校舎A棟2階大会議室において開催されました。佐藤学長にもご参加いただき、「病児・病後児保育」をテーマに、子育て中でも働きやすい環境整備を目指して交流が行われました(参加者31名)。

話題提供としては、本学実施のアンケート結果から病児・病後児保育に対する支援を希望する教職員は非常に多いこと、また附属病院に勤務する教職員が夜勤時の病児保育に大変苦心している現状などについて説明がありました。このような現状を踏まえ、ライフステージに関わらず働きやすい職場づくりを目指して、病児・病後児保育に対する補助事業の充実を図っていくことの重要性について活発な意見交換が行われました。ご協力いただいた皆さまには、記して感謝申し上げます。



子育て中の教職員に対する駐車許可証発行を試行しました

弘前大学では、自家用車通勤には自宅からの距離が文京地区2km、本町地区3kmという制限があります。本町地区では既に、子育て中はこの制限が緩和されていました。職員から相談が寄せられたことをきっかけに、施設環境部の協力を得て、平成27年12月から文京地区において制限を緩和して試行的に駐車許可証を発行しました。利用者からは「保育園送迎の負担が軽減され大変助かった」などと好評でした。

男女共同参画推進室では、試行の成果を検証し、平成28年度以降の支援のあり方を検討してまいります。

ダイバーシティワークショップ(COC推進室と共催)を開催しました

男女共同参画推進室では、1月22日、市内の「ベジカフェ ×21世紀型集会所 indriya」において「ダイバーシティワークショップ」をCOC推進室と共催しました。

当日は、本学生を中心に16名が参加。男女共同参画推進室の山下梓助教が講師を務め、参加者は、さまざまなグループワークを通じて、学内や地域に既に多様な人々が暮らしていることへの気づきを高めるとともに、ひとりひとりにとって学びやすく働きやすい弘前大学、暮らしやすい地域づくりについて考えました。

参加者からは「最初は緊張したが、とても和やかな雰囲気の中で会話を楽しむことができた。多様性についてももっと深く考えていきたい」「多様性への気づきや気付かないことでの排除ということに気づく事ができた」等の感想が寄せられました。



地域と連携した次世代育成の講演会・実験教室を開催しました

男女共同参画推進室では、2月10日、青森県県土整備部・農林水産部、八戸工業高等専門学校と「女性技術者ロールモデル講演会」を共催しました。技術職として活躍する青森県庁の3名の女性技術者から、仕事の内容や現在に至るまでの歩み、ワーク・ライフ・バランス等についてお話しいただいた後、講師を交えて本学の学生と高専生が交流しました。

当日は、八戸工業高等専門学校の学生を含む15名が参加。全員がセミナーについて「参考になった」と評価し、「1年生でまだ進路についてわからないことが多いが、参考にしたい」「様々な女性の働き方を知ることができて面白かった」「また開催してほしい」等の感想が寄せられました。

また、3月5日には、青森市男女共同参画プラザが主催した女子小中学生対象の理科実験教室「実験ガールズ」に本学教育学部の理系女子学生4名が講師として参加・協力しました。

